

## 中学校 英語科 部会

部会長名 赤村立赤中学校 奥 浩 幸

実践者名 大任町立大任中学校 中西 由恵

### 1 研究主題

「読むこと」から得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書くことができる

生徒を育てる中学校第2学年外国語科学習指導

－「読む活動」と「書く活動」における「構造マップ」の活用を通して－

### 2 主題設定の理由

『中学校学習指導要領解説外国語編』では、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力の基礎を養うために、技能を統合して活用させる言語活動の充実が求められている。生徒に実態調査から、「読むこと」に関しての長文読解の問題では、文章中の主題や文章の要旨となる内容把握に課題が見られた。また、「書くこと」に関しての英作文では、文や単語を羅列した生徒が多く見られた。このような生徒の実態から、筆者の考えや文章全体の大まかな流れを正確に読み取ること、テーマについての「自分の考え」を導き出して整理し、まとまりのある英文を書くことができる生徒を育てる必要があると考える。これらの課題解決に向け、「読むこと」と「書くこと」を関連付けた授業を展開することが大変意義深いと考え、本主題を設定した。

### 3 主題と副題の意味

#### (1) 主題について

「『読むこと』から得た知識等を関連付けて『自分の考え』を英語で書く」とは、生徒が、教師の提示した説明文を「読むこと」を通して、筆者の考えに自身の身近な出来事や体験したことを結び付けて「自分の考え」を導き出し、それを筆者が考えを表現するために使っている文の構造パターンや、語句や表現を活用して、目標言語材料を正しく用いながらまとまりのある英文を書いて表現することである。

ここでの「知識等」とは、資料1の三つと捉える。

つまり、「『読むこと』から得た知識等を関連付けて」

とは、一つは、説明文の特に中心となる事柄など大切な部分について、生徒が主体的に考えたり、判断した

りしながら、身近な出来事や体験したことに結び付けて「自分の考え」を導き出すことであり、二つは、筆者が考えを表現するために使っている文の構造パターンや、語句や表現を、生徒が「自分の考え」を書くときに積極的に活用しようとすることである。

そこで、本研究で目指す生徒を次の四つの姿とする。

- ある事柄についての英語の説明文を読んで得た知識等を、テーマに対する「自分の考え」を書くために積極的に活用して書こうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ある事柄についての英語の説明文を読んで、特に中心となる事柄など大切な部分について正確に読み取ることができる。【外国語理解の能力】
- 与えられたテーマについての「自分の考え」をまとまりのある英文で書くことができる。【外国語表現の能力】
- 目標言語材料の文構造を理解し、正しい語順や語法を用いて文を構成する知識が身に付いている。【言語や文化についての知識・理解】

○主体的に読むことによる思考・判断  
○書き手の考えやそれを表現するために使っている文の構造パターン、語句や表現に関する知識・理解  
○テーマに対する「自分の考え」を表現しようとする関心・意欲・態度

資料1 本研究での「読むこと」から得た知識等

(2) 副題について

「読む活動」と「書く活動」とは、生徒が、与えられたテーマに沿って説明文を読み、読み取ったことから「自分の考え」を導き出して英作文として表現するまでの一連の活動である（表1）。

「読む活動」における「構造マップ」（以下「構造マップⅠ」という）とは、説明文の中の筆者の主張やそれを説明するために使っている英語の語句や表現を読み取らせるために、それらを「図や図形、チャートなどを使い、視覚的な構造」<sup>1)</sup>（Kang, 2004）にさせるための構造図のことであり（図1）。読み手として、このような構造図を用いることで、手がかりとなる語句や表現から文章全体の大きな流れを読み取り、まとまりのある英文に対する理解を深める生徒の姿が期待される。

「書く活動」における「構造マップ」（以下「構造マップⅡ」という）とは、生徒が、説明文を「読むこと」を通して導き出した「自分の考え」、また、それを説明するために必要な英語の語句や表現を「図や図形、チャートなどを使い視覚的な構造」にさせるための構造図のことであり（図2）。書き手として、このような構造図を用いることで、「読むこと」を通して得たテーマに対する「自分の考え」を整理し、それを説明するために説明文に含まれている英語の語句や表現を積極的に活用しようとする生徒の姿が期待できる。

表1のように、技能を統合させた一連の言語活動において、「構造マップ」を活用することによって、「読むこと」から自分が伝えたい事柄を導き出し、それを表現するための知識等を「書くこと」につなげていくことで、「自分の考え」を整理し、目標言語材料を正しく用いてまとまりのある英文を書く生徒の姿が期待できる。なお、一連の流れにおいては、個人での活動の後に班で交流し、その後、全体で共有する場を設ける。その際、交流の視点を提示する。このような交流を通して、正確な読み取りを促し、英作文に必要な語句や表現をつかませる。

	「読む活動」	「書く活動」
目的	筆者の主張や、それを説明するために使っている英語の語句や表現を読み取れるようにする。	「読む活動」で得た知識等を関連付けて、目標言語材料を正しく用いながら、まとまりのある英文を書くようにする。
内容	①「読む活動」と「書く活動」のテーマを確認する。 ②「構造マップⅠ」の枠組みに対する予想をする。 ③説明文を読み、読み取った内容を「構造マップⅠ」の枠組みに記入する。 ・主張・理由、説明・結論（日本語と英語） ④「構造マップⅠ」の内容について交流する。 ・読み取った内容と手がかりとなった表現の妥当性 ・まとまりのある英文の条件 ⑤「構造マップⅠ」を完成する。	①テーマに対する「自分の考え」を「構造マップⅡ」の枠組みに記入する。 ・主張・理由、説明・結論（日本語） ・必要な英語の語句や表現（英語） ②「構造マップⅡ」の内容について交流する。 ・まとまりのある英文の条件の活用 ・目標言語材料の活用 ③「構造マップⅡ」を基に、英作文の下書きを書く。 ④英作文の下書きの内容について交流する。 ・まとまりのある英文の条件の活用 ・目標言語材料の正確さ ⑤英作文の下書きを加筆、修正し、清書する。
方法	○テーマの提示 ○「構造マップⅠ」の活用 ○交流（班→全体）の視点を提示	○「構造マップⅡ」の活用 ○交流（班→全体）の視点を提示

表1 「読む活動」と「書く活動」の概要

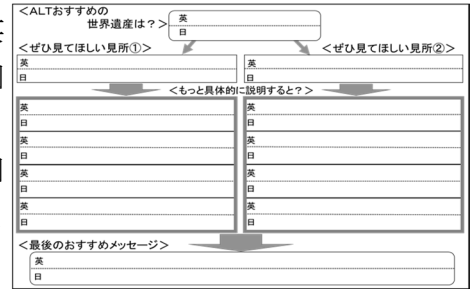


図1 「読む活動」での「構造マップⅠ」

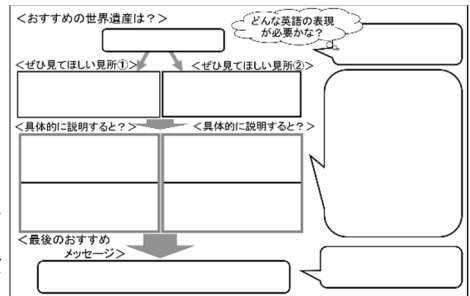


図2 「書く活動」での「構造マップⅡ」

4 研究の目標

第2学年外国語科において、「読むこと」から得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書く生徒を育てるため、「読む活動」と「書く活動」における「構造マップ」の有効性を究明する。

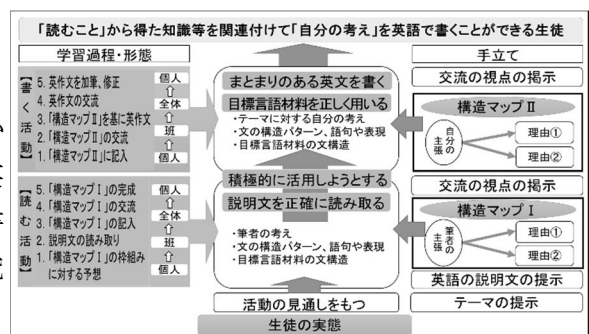


図3 研究構想図

## 5 研究の仮説

第2学年外国語科の題材指導過程に位置付けた「読む活動」と「書く活動」において、「構造マップ」を活用すれば、「読むこと」から得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書くことができる生徒が育つであろう（図3）。

## 6 研究の計画

(1) 題材 第2学年 「ALTの先生に京都でおすすめの世界遺産を紹介しよう」（Unit5）

(2) 題材目標と題材指導計画（総時数8時間）

題材目標	○ ALTの説明文を読んで得た知識等を積極的に活用して、「京都でおすすめの世界遺産」についての英文を書こうとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ○ 「京都でおすすめの世界遺産」として、「自分の考え」をまとまりのある英文で書くことができる。 【外国語表現の能力】 ○ 接続詞（if, when, because, that）の文を含むALTの「おすすめの世界遺産」の内容を正確に読み取るができる。 【外国語理解の能力】 ○ 接続詞（if, when, because, that）の文を正しく用いて「京都でおすすめの世界遺産」について書くことができる。 【言語や文化についての知識・理解】		
	第一次（2時間）	第二次（2時間）	第三次（4時間）
題材指導計画	1. 本題材で取り組む活動の目的や流れをつかむ。 2. 接続詞の文を用いた練習をする。 (1) 接続詞の練習 ・If you are lucky ・I think that ~. (2) 接続詞の文を使つてのQ&A活動 ・I choose Tour B because I want to take beautiful pictures.	1. ALTの「おすすめの世界遺産」の説明文を読んで、内容を理解する。 (1) 「構造マップⅠ」の枠組みの予想→交流 (2) 個人で「構造マップⅠ」に記入 ・おすすめの世界遺産、見所、具体例 (3) 班で内容を交流し、全体で共有 (4) 個人で「構造マップⅠ」を完成 2. まとまりのある英文の条件を確認する。	1. 「京都でおすすめの世界遺産」の英作文の下書きを書く。 (1) 「構造マップⅡ」に記入 ・おすすめの世界遺産、見所、具体例 (2) 班で内容を交流し、全体で共有 (3) 「京都でおすすめの世界遺産」の下書き (4) 班で内容を交流し、全体で共有 (5) 個人で加筆、修正して下書きを完成 2. 下書きを消書する。

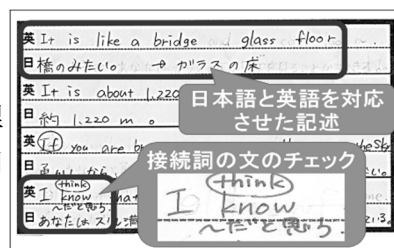
## 7 指導の実際と考察

### (1) テーマの提示

ここではまず、題材を貫くテーマを提示することで、一連の活動の見通しをもたせ、主体的に活動ができるようにすることをねらいとした。テーマは、修学旅行と関連させ、京都への旅行を計画しているALTに「京都でおすすめの世界遺産を紹介しよう」とした。生徒からは、「絶対金閣寺を紹介したい」など意欲的に取り組もうとする様子が見られた。次に、英作文を書かせる際、目標言語材料の活用を促す活動が十分でなかったというこれまでの自身の反省を基に、第一次として、「書く活動」につなげるための言語活動を設定した。まず、接続詞節をペアで口頭練習し、自分が行ってみたい世界遺産ツアーについて理由を添えて友達に伝える活動を設けた。このような活動を仕組むことで、「書く活動」における「構造マップⅡ」では、「自分の考え」に近い英語の語句や表現を第一次のワークシートから取り入れる生徒の姿が多く見られた。

### (2) 「読む活動」における「構造マップⅠ」の活用

ここでは、「構造マップⅠ」を活用してALTの「おすすめの世界遺産」を読み、ALTの主張や考え及びそれらを表現するために使っている文の構造パターンや、語句や表現を正確に読み取らせることをねらいとした。まず、ALTの出身国の観光名所を紹介しながら、予備知識を与えた後、「構造マップⅠ」の枠組みの内容について予想させ、全体で交流した。ここでは、ALTが紹介するグランド・キャニオンの見所について多くの予想が出された。生徒の振り返りの記述からは、予想をして英文を読むことが内容を理解する上で役立った様子が見られた。次に、個人で説明文を読ませ、「構造マップⅠ」に記入させた。ここでは、手がかりとなる英語の語句や表現から理解できるようにするために、「構造マップⅠ」の枠組みを日本語と英語の



資料2 「構造マップⅠ」の記述

語句や表現で分けて記述させた結果、日本語と英語を対応させて書く生徒が多く見られた(資料2)。次に、「構造マップⅠ」の内容について、班で交流させた。ここでは、正確な読み取りにつなげるために、「読み取った内容と手がかりとなった語句は妥当か」という交流の視点を提示したところ、抜き出した英語の語句や表現と日本語の語句が対応しているかを確認したり、なぜその部分を抜き出したのかを尋ねたりする生徒の様子が見られた。その結果、全員が交流を通して気付いたことを赤ペンで加筆、修正していた。最後に、班で交流した内容を全体の場で共有した。ここでは、まとまりのある英文にするために必要な条件を「相手に伝わりやすい英文の条件」(資料4)として提示すると、「構造マップⅠ」の接続詞をチェックする生徒が多くいた(資料2)。以上のことから、説明文の正確な読み取りについては、以下の手立てが有効であったと考える。



資料3 班での交流の様子

- ①テーマに沿った内容
- ②First, Second
- ③具体例
- ④つなぎ言葉(3つ以上)
- ⑤代名詞

資料4 相手に伝わりやすい英文の条件

- 「構造マップⅠ」の枠組みの内容について予想をさせ、全体で交流をしたこと。
- 「構造マップⅠ」を用いた班や全体の場での交流で、交流の視点を提示したこと。

### (3)「書く活動」における「構造マップⅡ」の活用

ここでは、「構造マップⅡ」を活用して、「読む活動」で得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書けるようにすることをねらいとした。これまでの指導において英作文を書かせる際は、目標言語材料の活用に関する条件付けを行っておらず、活用に偏りが見られるという課題があった。そこで、本実践では、接続詞の文を三つ以上用いることを条件とした。

#### ①「構造マップⅡ」への記入

まず、個人で「構造マップⅡ」に「自分の考え」を記入させた。その際、日本語の文で記入すると内容が複雑になり、英作文を書く際に、どのように英語で表現すれば良いか分からなくなるという生徒の実態を鑑み、本実践では、「読む活動」の「構造マップⅠ」の英語の語句や表現を活用しやすくするため、「構造マップⅡ」に平易な日本語の語句で記入するよう指示した。その結果、「構造マップⅡ」に自分が紹介したい世界遺産の見所やその具体的な説明について平易な日本語の語句で書いたり、「構造マップⅠ」に記入した接続詞やI think thatのような英語の語句や表現を「構造マップⅡ」に活用したりする生

**【構造マップⅠ】**

<ALTおすめの世界遺産は?> 英 The Grand Canyon  
日 グランド・キャニオン

<p>&lt;ぜひ見てほしい見所①&gt; First</p> <p>英 The seven Natural Wonders</p> <p>日 自然で不思議</p> <p>&lt;もっと具体的に説明すると?&gt;</p> <p>英 famous (because), River made, over r...</p> <p>日 コロラド川は、6000年以上前、たから有る。</p> <p>英 Many people go hiking.</p> <p>日 多くの人がハイキングに行く。</p> <p>英 (When) you walk around, enjoy nature &amp; wildlife</p> <p>日 歩きまわると、自然と野生が楽しめる。</p> <p>英 You can also ride a mule.</p> <p>日 ラバにのることが出来る。</p>	<p>&lt;ぜひ見てほしい見所②&gt; Second</p> <p>英 It has a Skywalk</p> <p>日 スカイウォーク</p> <p>&lt;もっと具体的に説明すると?&gt;</p> <p>英 You can look down, glass floor.</p> <p>日 ガラスの床から下を見ることが出来る。</p> <p>英 about 1,220 meters high.</p> <p>日 高さ約1220m。</p> <p>英 have, you must walk across the Skywalk!</p> <p>日 歩く時は、スカイウォークを渡る。</p> <p>英 will have a thrilling time!</p> <p>日 素晴らしい満点の時間があると思える!</p>
--	--

<最後のおすすめメッセージ>

英 (I think that) this is the most beautiful & interesting place in the world.

日 世界で一番美しくおもしろい場所だと思える。

目標言語材料である接続詞の文をチェック

---

**【構造マップⅡ】**

<おすめの世界遺産は?> 清水寺

<p>&lt;ぜひ見てほしい見所①&gt;</p> <p>音羽の滝</p> <p>&lt;もっと具体的に説明すると?&gt;</p> <p>3つの滝が流れている。</p> <p>とても長い行列に並ぶ。</p> <p>① その滝の水をのめる。when 主語動詞</p>	<p>&lt;ぜひ見てほしい見所②&gt;</p> <p>紅葉</p> <p>&lt;もっと具体的に説明すると?&gt;</p> <p>② それを写真にとる。一生の思い出になる。If 主語 動詞</p>
---	---

<最後のおすすめメッセージ>

世界遺産の時間をお過ごせると思う!

I think that

「構造マップⅠ」からの関連付け

---

**【英作文の清書】**

I recommend my favorite Kyoto Heritage Site in Kiyomizudera. ← 主張

I have two reasons.

First, there is "Otowa no taki". It has three waterfalls. ← 理由

When you stand in a very long line, you can drink water. ← 説明

Second, you can enjoy "Autumn leaves." You can see beautiful scenery from the stage. If you take pictures, they will be good memories.

I think that you can have a wonderful time. ← 結論

資料5 「構造マップⅠ・Ⅱ」と英作文の関連付けの記述

徒の様子が見られた（資料5）。次に、「構造マップⅡ」の内容について、班で交流させた。ここでは、英作文を書く際に必要な英語の語句や表現をつかませるために、「どこで接続詞の文が使えるか」などの交流の視点を提示した（資料6）。この結果、どこで、どの接続詞の文が使えるかを話し合い、赤ペンでwhenや「～のとき」などを加筆、修正する生徒が多く見られた。最後に、班で交流した内容を共有し、個人で英文を書く手がかりをつかませるために、全体で交流の場を設け、接続詞の文が使えるような例文を紹介した。

【「構造マップⅡ」の交流の視点】  
 ・相手に伝わりやすい英文の条件を満たせそうか？  
 ・どこで接続詞の文が使えるか？  
 ・英文を書く際の手がかりとなる語句や表現は？  
 ・空欄がある場合、どんな内容を加えられるか？  
 【英作文の下書きの交流の視点】  
 ・相手に伝わりやすい英文の条件を満たしているか？  
 ・接続詞の文は正しいか？  
 ・日本語に対応する英語の表現は何が使えるか？  
 ・英文の意味を理解してもらえるか？

資料6 「書く活動」での交流の視点

②「構造マップⅡ」を基にした英作文の下書き

次に、個人で英作文の下書きを書かせ、その内容について班で交流させた。ここでも、「接続詞の文は正しいか」などの交流の視点（資料6）を提示すると、接続詞の文を赤ペンで正しく修正する生徒が多く見られた（

【構造マップⅡ】の記述  
 この三世は有名です。なぜなら  
 7年中 楽しめるから  
 【英作文の下書き】の記述  
 because enjoy all season  
 you can  
 交流で接続詞の文を修正

資料7 交流後の「構造マップⅡ」と英作文の下書き

資料7)。班での交流後、全体で英作文に便利な表現や接続詞の文の語順について交流した。さらに、「相手に伝わりやすい英文の条件」の活用例を紹介すると、条件である代名詞について加筆、修正する記述が多く見られた。班や全体での交流後、個人で英文に加筆、修正させて下書きを完成させた。最後に、事前に準備させた写真やイラストを貼らせ、清書をさせた。生徒の振り返りの記述や英作文から、「構造マップⅠ」の活用を通して、何をどのように書けば良いのか、その手がかりを得て、それらを「構造マップⅡ」に整理し、自分が表現したい内容に近づけるために主体的に考えたり、判断したりしながら、英作文を完成させた様子がうかがえた。以上のことから、与えられたテーマについての「自分の考え」をまとまりのある英文で書くことや目標言語材料の正確さに、以下の手立てが有効であったと考える。

- 「構造マップⅠ・Ⅱ」の枠組みを共通の枠組み（主張→理由、説明→結論）にしたこと。
- 「構造マップⅠ」の活用を促すために、「構造マップⅡ」に平易な日本語で記入させたこと。
- 「構造マップⅡ」や下書きの交流で、接続詞の文についての交流の視点を提示したこと。

8 研究のまとめ（全体考察）

手立ての有効性について、また、「読むこと」から得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書くことができたかについて、以下、ア～オから述べる。なお、本研究において実施した二回の実践のうち、不定詞を目標言語材料とした、「夢に向けてのチャレンジ宣言を書こう」を前実践とし、本実践との比較で、生徒43名の変容から述べる。

(1) 説明文を読んで得た知識等を、テーマに対する「自分の考え」を書くために積極的に活用して書こうとしたか【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

関心・意欲・態度については、「構造マップⅠ・Ⅱ」、英作文に関連付けた記述があるかで分析した。図4より、「構造マップⅠ・Ⅱ」と英作文のそれぞれに関連付けていると見られる記述のある生徒が増え、全員となった。「読む活動」と「書く活動」を貫くテーマの提示や、「構造マップⅠ・Ⅱ」を共通の枠組みにしたこと、さらには、班や全体

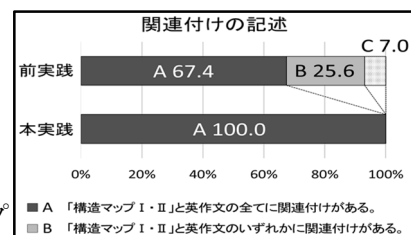


図4 関連付けの記述

での交流で、交流の視点を提示したことが有効であったと考えられる。

(2) 説明文を読んで、特に中心となる事柄など大切な部分について正確に読み取ることができたか【外国語理解の能力】

説明文の正確な読み取りについては、「構造マップ I」への日本語と英語の語句や表現の両方の記述で評価、分析した。図 5 より、「構造マップ I」を用いて、説明文の正確な読み取りができた生徒が増えた。これは、「構造マップ I」の枠組みの内容について予想させたこと、「構造マップ I」を用いた交流の場で、交流の視点を提示したことが有効であったと考えられる。しかしながら、正確な読み取りにおいて C 評価の生徒は減ったものの、11.6%の生徒が十分に読み取ることができていなかった。正確な読み取りについては、まずは、第一学年からの既習単語の積み上げが必要であると考えるが、資料 8 の振り返りの記述のように、「構造マップ I」を活用して、手がかりとなる語句や表現の前後を繰り返し読むなどして、何とか読み取ろうとする様子が見られたことから、「構造マップ I」の活用が主体的な読みを促し、正確な読み取りにつながることを示唆されたと考えられる。

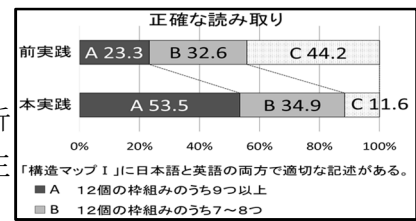


図 5 説明文の正確な読み取り

何回も読み取りにしているうちに、接続詞を使った文の意味が分かった。

資料 8 「読む活動」後の生徒の振り返り

(3) 与えられたテーマについての「自分の考え」をまとまりのある英文で書くことができたか【外国語表現の能力】

まとまりのある英文については、生徒に提示した「相手に伝わりやすい英文の条件」の活用状況と英文の量で評価、分析した。図 6 より、まとまりのある英文を書くことができた生徒は増え、C 評価の生徒はいなかった。「構造マップ I・II」を共通の枠組みにしたことで、生徒は、視覚的に説明文の構造を捉えることができ、同じように構造化された枠組みの内容について比較しながら、テーマに対する「自分の考え」を整理しやすかったと考えられる。また、「構造マップ」を用いた交流の場で交流の視点を提示したことで、生徒は「構造マップ」の枠組みのどの部分を見れば良いかが分かりやすく、交流の視点に沿った話合いがしやすかったと考えられる。

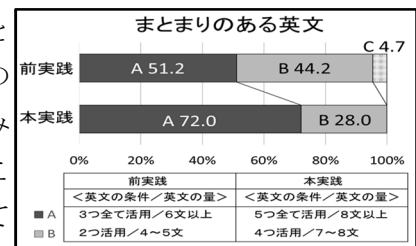


図 6 まとまりのある英文

(4) 目標言語材料の文構造を理解し、正しい語順や語法を用いて文を構成する知識が身に付いたか【言語や文化についての知識・理解】

目標言語材料である接続詞の文の正確さについては、生徒が清書した英作文で評価、分析した。前実践からの課題を受け、本実践では英作文の条件付けを行った。そのため、目標言語材料の正確さについては、比較ができないため、本実践の結果から述べる。図 7 から、目標言語材料の正確さについては、B 評価以上の生徒が 93.0% であった。これは、前述したように、目標言語材料である接続詞の文についての交流の視点を提示したことが有効であったと考える。しかしながら、第一次で練習した接続詞節については定着が見られたが、それに続く文の語順でミスが目立った。特に、C 評価の生徒は、基本的な文構造の知識が定着していないために、班での交流で手がかりを得ても、個人の活動で正しく文を書くことができなかったと考えられる。目

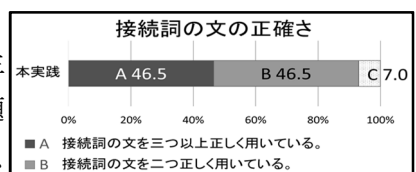


図 7 目標言語材料の正確さ

標言語材料の正確さについては、第一学年の段階からの題材指導過程において、基本的な文の語順を練習させる活動と生徒が英語で自己表現したいと思えるような活動を仕組み、練習した言語材料を活用して自己表現させる指導を系統的に行う必要がある。

(5)「読むこと」から得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書くことができたか

「まとまりのある英文」「目標言語材料の正確さ」の両方でB評価以上の生徒が93.0%となった(表2)。よって、「読むこと」から得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書くことができる生徒が育ちつつあると考えられる。

目標言語材料の正確さ			A	B	C
C	B	A			
2.3%	27.9%	41.8%	A	まとまりのある英文	
4.7%	18.6%	4.7%	B		
0.0%	0.0%	0.0%	C		

表2 英作文の質

以上、ア～エ、表2の結果より、「読む活動」と「書く活動」における「構造マップ」の活用は、有効であったと考えられる。

## 9 成果と今後の課題

### (1) 成果

○ 技能を統合させた一連の活動における「構造マップ」の活用は、「読むこと」から得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書かせる上で、有効であったと考えられる。特に、「構造マップ」を活用させることは、生徒の関心・意欲・態度を持続させるとともに、構造化された枠組みに沿って正確に読み取らせ、まとまりのある英文を書かせる上で有効であったと考えられる。

### (2) 今後の課題

- 目標言語材料である接続詞の文の活用において、接続詞節に続く文の語順でミスが目立ったという課題から、知識・理解については、本研究の手立てに課題が残ったと考える。文法事項の定着については、既習事項と関連付けながら、基本的な文の語順を練習させる活動と、練習段階で用いた言語材料を生徒が自己表現する際に生かせるような活動を組み合わせた題材指導過程の工夫を、第一学年の段階から系統的に行っていく必要がある。
- 生徒の実態に合わせて、「構造マップ」の枠組みの構造や、生徒に読み取らせたい内容や記入させる量を検討して、今後の「読むこと」や「書くこと」の指導につなげていく必要がある。

### <引用文献>

- 1) 伊東 治己 (2008) 『アウトプット重視の英語授業』 教育出版